



憲法9条の会つくば
 コミュニティーニュース
 2008. 1. 20 No. 19

ゆ **結** い

発行 「憲法9条の会つくば」
 〒305-0005 つくば市天久保1-10-12 1-401
 電話 090-3811-3753 Fax 029-856-2286
<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

2008年 あけましておめでとうございます。



今年も 日本国憲法のすばらしさを
 これまで話したことのない人にも
 楽しく広げていきましょう。

新年早々、国会で「新テロ特措法」が可決されました。最新の世論を反映している参議院で否決したものを、自民・公明勢力が憲法59条を盾に衆議院に戻し、まさに数の暴力をもって再議決したのです。多数の国民が反対しているにもかかわらず、憲法9条を踏みにじてアメリカの戦争に協力する「艦船への給油」が再開されることになりました。

今、多くの国民が望んでいることは、「テロも戦争もない平和な社会」です。つくば市の成人式(1/13)でも、新成人の若者は「憲法9条は変えてはいけない」「アメリカの戦争に協力するために自衛隊を軍隊にすることに反対」「成人式の記念に」などと意見を述べて署名をしています。「成人おめでとう、憲法9条を守ろう」の会のチラシも快く受けとってくれました。自分たちの将来のこととして、平和のことを年金問題等と同様に考えていました。まさに「憲法9条を暮らしに生かす」ことを望んでいるのです。

国民も、アメリカに協力して、ただついて行こうとする政治には未来がないということに気づきはじめています。世界を見れば、ヨーロッパも、東南アジア諸国も、中国も、インドも、近年の中南アメリカ諸国も、アメリカの影響から独立した平和・協力関係の追求を進めています。その世界の行く先に、憲法9条が輝いているのではないのでしょうか。

新しい年。今年も、新たな多くの人々と語り合う機会をとらえ、日本を世界を広く見渡した楽しい語らいで、「9条の輪」を広げていきましょう。



賛同人 609名 (市内472名)
 1月8日現在
 9条署名 1月14日までの累計:
 4,883筆
 (1月6日 定例行動: 77筆
 13日成人式行動: 123筆)

定例行動

2月3日(日)・3月2日(日) 定例街頭署名行動
 11時半～ 中央公園アルス図書館前集合
 3月16日(隔月第3日曜日) 定例会
 10時～12時半 並木公民館

“東京は熱い！” 11.16 "Peace Night 9" in 早稲田

先日、「首都圏学生 9 条の会」が主催したイベント"Peace Night 9"に行っていました。このイベントの詳細は、<http://www.peace9.net/main/index.html>

学生 3 人は、TX で駆けつけたものの、第 1 会場はすでに満席となっていたため、第 2 会場へと誘導され、モニター参加となってしまいましたが、その後もみるみる人が増え、最終的には第 3 会場まで満席となっていたようです。

私が何より感銘を受けたのは、ホントに多くの学生が、「9 条」のみを一致点に、趣向を凝らして、多彩に活動しているという事実そのものでした。早稲田をはじめ、東大、中大、明治、慶応などなどの大学内で 9 条の会がつくられ、各人が自由にそれぞれの「9 条」への思いを表現していました。

たとえば、ひとつには、この手の集会ではおおよそ見ることもないデザインのフライヤー、ポスター（HP ぜひ参照！）で、根っから学生主催を物語っているように思えました。コンテンツにおいても、間断なく音楽が流れ続けて、スピーチなのか詩の朗読なのか、時々よく分からなくなってしまうカンジで、エンターテインメント性が重視されてるトコなんか、これまでにない集会としてとても新鮮でした。時々うるさすぎたり、段取り悪かったり、はありましたけど……。しかし、その一方で、このイベントの核心が軽んじられていたり、ぼやけていたかといえば、決してそうじゃなかったと思います。

私がかつとも胸打たれた、イベント冒頭で語った中大の女子学生は、当座の就職活動に明け暮れていた日々から、『リトル・バード』という映画をきっかけに、自分の住む横須賀米軍基地のイラク戦争における役割を考え始め、中大の「9 条の会」に参加していったとのこと。他人の悲惨に無関心でいた自分を恥じ、9 条のグローバルな役割を再発見し、「9 条の会」に入って新しい自分になっていくという彼女のプロセスは、時代の潮流そのものであるように思えました。彼女のこのプロセスが、この 11 月 19 日の"Peace Night 9"へと向かうものであるとすれば、このイベントの趣旨を、彼女自身が自分の経験を通じて、代弁していたのかもしれない。

おそらく、加藤周一さんがこのイベントの講演（「老人と学生」）で言っていた、「1968 年」を含めた学生運動の時代と現代とで共有できるもうひとつのものとして、このあたりのニンゲンの可能性なんかかも……。あるとかないか。加藤さんの講演についてなど、報告の続きは、次の機会に譲りますが、やはり、東京に吹く風は、筑波おろしに阻まれてか、つくばまではなかなか届かないようで、自ら東京に向かい、定期的に電腦をアップデートする必要があります（いつの間にか、「東京院生 9 条の会」なるものが立ち上がっていました！）（大学院生 T.Y.）

楽しく、熱気ももらいました。

Peace Night9 では高校生から大学院生までの様々な学生が、憲法 9 条に対する自分の思いを発言しました。発言の形を憲法 9 条へのラブレター調にした方もおり、聞いていてとても楽しかったです。中でも、ある大学院生の方は、弥生時代と戦争の発生に関する研究をしているという発言をしていました。

弥生時代、人々の生活が豊かになり差異が生まれたことによって戦争が発生したのだから、戦争はもともと利害関係の目的を持つものであり、また「戦争は人間の本能」と言う人がいるがそれならば私たちはその本能に抗い理性で生きていくのだ、という内容でした。一見すると関連性が無さそうに感じられる「弥生時代」と「戦争」をこんな風に結び付けて考えられるなんて…。どんな所からでも平和を考える糸口は見つかるのだな、としみじみ感じました。

また、賛同人の方々の紹介が終わってから、ジャズシンガーの形岡七恵さんが『晴れ着の娘』『Imagine』の 2 つの曲を歌ってくださいました。

『Imagine』はお馴染みの、ジョン・レノンが平和を歌った曲ですが、もう一方の『晴れ着の娘』という歌は、被爆した女性が婚約者に会いに行く日に白血病を発症して死んでしまう、実話に基づいた歌で、実際に被爆者の方が作られたそうです。この中に「私は生きたかった」という歌詞が出てきます。私はこれを聞いて、思わず涙が出てしまいました。生きたいと思っている人の生を阻むもの、それが戦争であり原爆なのだ。今も同じ地球上で「生きたい」と強く思いながら死んでいく人がいるのだ、と感じさせられ、戦争は無くす以外ないという思いを強くしました。

また、今回、東京には多くの学生 9 条の会があることにとても驚き、嬉しくなりました。そして私が今まで経験してきた 9 条の会関係のイベントと大きく違う点は、主催者はもちろん、参加者が主に学生だということです。そうではない方もいらっしゃいましたが、会場内を見回すと友達どうして誘い合って来たような方が目立っていました。

こうして首都圏の学生が活発に活動していることを目の当たりにすると、私も頑張らなければと思います。もっともっと、憲法 9 条を変えさせず活かすという声を増やしていきたいです。（大学生 A.O.）

11.24 「九条の会」全国交流集会

全国の九条の会集合！ 創意工夫して“9条運動”を重層的に！

伊藤、武田、菊池、山本 が参加

- 550の「9条の会」から1020人が参加 -

はじめに、小森陽一事務局長は、全国の「9条の会」は6801、各種世論調査で「9条を変えない方が良い」が圧倒的な国民の声であり、もう一步、「9条を変えてはいけな、変えないで生かす」に世論を変えていこう、この場をその出発にしよう、と挨拶をされました。

- 呼びかけ人のあいさつ -

「自衛隊は認めるが9条改悪には反対」など、反対の理由は人によって異なるが『反対』で一致できる。(奥平氏)

「9条を守るのみに留まらず、これを生かす。会の組織は劇的に大きくなるより、ゆっくりと大きくなることを意識して進もう」(加藤氏)

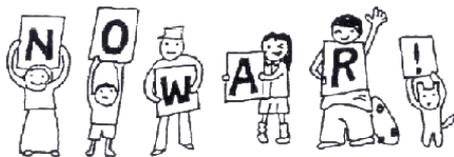
「小田実さんは小さな人間が参加しなければ政治は変わらない、と言った」(澤地氏)

「原爆を二度落とされた世界唯一の国として、世界史を変えるエネルギーが出てくるかもしれない」(鶴見氏)

「沖縄の集団自決で死んだ赤ん坊、女性、老人の前で『美しい死』などと言う者らの口をひねりあげてやらねば」(大江氏) など心に残る発言をされました。

全体会で地方から特色ある報告

「護憲をベースに13000枚のチラシを毎月、全国・地方新聞に折り込み」(宮城・岩沼9条の会)「近くの公園で、1人で署名を8000筆以上集め、“9条おじさん”と言われている」(9条の会小金井)などの特徴ある行動が報告されました。



分散会の報告

私が参加した分散会では、25の9条の会が発言。安倍から福田内閣に変わり「改憲反対」の運動が下火になっているような状況で、どこの9条の会も「賛同が広がらない、運動が盛り上がらない」ことに苦慮しているようでした。

だからこそ、多くの9条の会は「ゆっくりと重層的」を心がけているようでした。毎月「9条カフェ」開催、小学校の開放教室で「学習会」、いつもお出かけは8人乗り「9条カー」で、「9条グッズ」をもって「9条トラさん」、「9条風船」「9条ティッシュ」などで駅頭やスーパー前宣伝等、いろいろ工夫を凝らしていました。

また、午前中にチラシを撒いてから午後には各戸訪問、町の有力者へ賛同を訴えカンパをもらう、地域のサークルや宗教関係を訪問など、地道に行動していました。全体に小さな地域単位の会ほど行動しやすく、成果もあがっているようです。大きなネットワークとしての会は、「出すぎず、やりすぎず」をモットーに、地域で行動しやすい状況をつくるための宣伝署名行動や首長などの有力者訪問、全体催し物企画などに取り組んでいました。分野では、医療者、女性、教師などの9条の会は、それぞれの特質を考えた行動で9条運動を全国的に広げているようです。

全国の経験を聞くなかで、「憲法9条の会つくば」は地域に根ざした会というより、ネットワークの会のようであるなと思いました。「会」が地域で宣伝署名などの行動をすることで、その地域に「9条を守ろう」の運動を起こしていく、そしてその運動を支え励ます、そんな組織のように思い、これからの我が9条の会の運動の進め方をぼんやりと考えさせられました。

(伊藤清子)

午後の私が参加した分散会では、21の9条の会から活動報告がありました。宗教・弁護士・女性等の分野別や職場の「会」からも注目すべき報告がありましたが、やはり地域の「会」の発言に学ぶべき点がありました。

分散会の発言で印象に残ったことは、住民全体を対象とする運動を進めている「会」は比較的小さな「会」であるということでした。

2つのみ紹介：有権者が13,000人程度の山形県のある町では署名が6,800筆に達し、過半数を超。そのうち2,000筆は83歳の元小学校教師が集め、全体が励まされたそうです。福島県の北塩原村は人口3,500人の農山間地。村議、区長や元教育長を含めた50人が呼びかけ人となり「会」を今年の10月に結成。9月の「日本の青空」上映会には130人が参観。全戸へのチラシも4回新聞折

り込みで実施。

在住地域での活動は簡単なことではありません。様々な工夫はしなければなりませんが、小さな単位で対象とする人々の顔がわかる所で取り組まなければ「変えさせない」運動は進まないかもしれないと感じました。

(菊池清彦)



明けまして おめでとうございます。

今年も、つくば市の成人式で「成人おめでとう、憲法9条を守ろう」の訴えをしました。

この日は、筑波山も白く、雪が降ったんだ！と感激の朝でしたが、会場は冷たい北風で凍えてしまいそうでした。新成人の皆さんも、特に高く髪を結いあげた女性は乱れなように苦労だったようです。

皆さん、とても快くチラシを受け取り署名に応じてくれました。10人で500枚のチラシを配布し、123筆(なんと美しい！並んだ数)の署名をいただきました。成人式には約1600人が参加したそうです。ということは、約3人に1人がチラシを受け取り、署名も10数人に1人がしてくれたこととなります。すご～い！と思いませんか。

私も、フレッシュで喜びあふれる若者に元気を一杯いただきました。

青紫色にピンクの桜吹雪の素敵な振袖の女性は、「憲法9条を変えるとっているの？戦争したいのかな…。絶対変えてはならないと思うよ」と署名し、中学の同級生の男性に「ちゃん！二十歳の記念！」と呼びかけました。茶髪の彼は黄橙の羽織に赤いバラ(実行委員らしい)をつけて、「オウ、いいぞ！俺は戦争よりもやって欲しいのは、年金保証だ！」と署名してくれました。

待ち合わせている羽織姿の男性グループでは、「憲法9条変えると、自衛隊もヤバイのでは」という男性に応じて、全員が署名をしてくれました。

携帯を耳に歩きながらも、コンパクトでおしゃれなチラシを見て受け取り、署名は帰りに と言っていく人も多かったです。

大きなピアスに、晴れ着と合わせた図柄のおおきな爪(ネイルというそうだと派手な格好(目の保養になりました！)の若者たちでしたが、平和のこと、年金のこと、将来のことなどをしっかり考えていることがわかり、とてもうれしくなりました。今の若者だって頼りになるぞ！と励まされました。ありがとう！

新年早々、北風(逆風)にも負けない勇気をもらいました。そう、今年もがんばろう。(せい)



ひとこと… 賛同人から

大江健三郎は憲法と教育基本法について、多くの日本人が死んだ「かつてない窮境」の中で制定され、戦後の窮境からの復興の大きな支えになった、と言ってます。また、本人も窮境だったので、憲法と教育基本法を大切なものとして受け止め、頼りにおもったそうです。憲法と教育基本法があったから、窮境を前向きに生き抜き、その経験が小説の元になってるそうです。

私も憲法は、日本の下支えをしていると思うし、再び窮境へ陥る歯止めになってると思います。これから先、自分が窮境(苦しい境遇)へ陥ったとき頼りになる憲法を守りたいです。(H. 塚本)

本会の活動のための資金カンパ
ありがとうございます。
引き続きよろしくお願いします。

「結」を含む会の宣伝物や通信費は賛同者の皆様のご協力により支えられています。

郵便振込み口座: 番号 00100-3-742235

加入者名: 憲法9条の会つくば

編集後記

私は昭和二十二年に日本国憲法が施行されてまもなく生まれ、戦争の経験はありませんが、子どもの頃の周囲の大人は誰でも「もつ戦争はこ免やで」と言つのを聞いて育ちました。

戦中の新聞に載った話として、南京に向けて進撃中の軍人が「中国人百人斬り競争」をした、なんて話も聞きました。その軍人の遺族が、現代にその話を掲載した本を名誉毀損で訴えたとか。遺族の気持ちも想像はできませんが、斬られた側を嘔吐きに仕立てる行為はあつてはならないことです。南京大量虐殺の事実も、沖縄戦における住民への自決強制の事実も、当時を知る人が減ると、だんだんなかったことにされていくなんて。

歴史の事実を消し去ることが、日本の名譽のため」として、熱をあげている人々がいます。彼らにとっては、事実はどうでもよいことなのか、それとも事実を見極める判断力や迫真の想像力がないのか、でしょうか。

これからは、いよいよ戦争の事実を知らない世代ばかりになっていきます。しかも国民が国を任せている政権がそういう「怪しい社会」をリードしているのです。私にとって、事実とウソを都合良く取捨選択して国民に押しつける国が恐怖です。ファシズムの入り口はまさにこうではないかと思えます。

本日の民主主義を次代の国民にきちんと語り継いでいくことのできる国にしなければ、そのため何かしなければと会に参加しています。(吉)